校長通信

平成３０年度第６号

第21号　２０１８．８．２０

夏休み！知的関心を持てましたか？

８月20日、夏休みもアッと言う間に終ってしまいました。今日から２学期です。まだまだ暑さは続きますが、体調管理に気をつけて、がんばっていきましょう！創造祭は、目の前です！

さて、夏休みに入るにあたって、私がみなさんにお願いした内容を覚えていますか？そう、この夏休みは、「知的関心を持とう！」ということでした。そして、

Ⅰ．この夏休みから新聞を読もう！
Ⅱ．この夏休み、１冊は本を読もう
Ⅲ．この夏休み、大学のオープンキャンパスに出かけよう！
Ⅳ．この夏休みは、セミナーに参加しよう！

の４点をみなさんに、提案しました。生徒に提案して、校長はのんびり夏休みを過ごしていたというのでは、話になりませんので、校長はこの夏休み（実際は、教職員に夏休みというものはありませんが・・・）をどう過ごしていたかを報告し、みなさんの知的関心の手助けになればと思います。

【１】朝日新聞セミナー

７月24日、朝日新聞名古屋本社に出かけ、朝日新聞セミナーに参加してきました。テーマは、「どう変わる、どう備える、大学入試改革と社会で求められる力」です。内容は、新聞を活用して「思考力・表現力・判断力など」を養成するために、朝日新聞が開発した時事ワークシートの説明です。朝日新聞　教育コーディネーター　一色　清　氏が講演をされていました。「一色って誰？」と思うかもしれませんね。写真の人です。ニュースステーション　コメンテーター、アエラ編集長などをされている人です。

さて、時事ワークシートについてです。このワークシートは、朝日新聞に掲載された記事を約３週間後に教材にして発信されます。内容はこんな感じ

第一問　記事を読み、重要事項の穴埋めをする（読解力がないと難しい）
第二問　記事についてより理解を深めるための記述問題（読解力に加えて、表現力がないと難しい）
第三問　記事に関する自分の意見をまとめる（さらに、思考力が問われる）

という構成になっています。私が思うに、「なかなかの優れものではないか！」と思っています。なぜなら、とにかく新聞を読まない若者に新聞を読むきっかけを作ってくれる、その上、今後求められる「思考力、表現力、判断力など」を養うことができると思うからです。この８月28日に朝日新聞の担当者に〇〇高校に来てもらい、より詳しい話を聞くつもりです。興味のある人は、「時事ワークシート」で検索してください。

【２】ポートフォリオフォーラム

７月26日、河合塾が主催する「e-ポートフォリオフォーラム」に参加してきました。世間では、今の１年生から大学入試が変わり、「大変だ！大変だ！」と騒いでいます。その騒ぎの一つに、「e-ポートフォリオ」というものがあります。本校でも７月20日に１年生のPTA企画で、Japan　e-ポートフォリオを中心的に進めておられる関西学院大学の尾木特任準教授をお招きして講演会を行いました。１年生だけではなく、多学年からも保護者・生徒が参加されていました。関心の高さが伺えます。

さて、今回のフォーラムの趣旨は、「入試が変わるからポートフォリオ？　調査書が変わるからポートフォリオ？」と、世間で騒がれていることについて、「少し立ち止まって考えてみようよ」ということです。ずばり言うと「ポートフォリオは学びに活かすことができるのか？」ということです。結論から言うと、アナログのポートフォリオであろうが、デジタルであろうが、ポートフォリオは生徒の学びに大変役立つと言うことです。それはなぜか？ポートフォリオは、自分についての振

り返りを行うことで、「自分を客観的に観る」ことを促してくれるからです。これを学術用語で「メタ認知」というのです。大学への進学を考えている人は、この「メタ認知」という言葉を覚えて置いてください。これからの21世紀を生きるための「キーワード」の一つですから。

もう少しわかりやすく言いましょう。ポートフォリオというカタカナで書くからややこしいので、一番わかり易い例で言うと、

「ポートフォリオは、クラブ日誌のようなもの」

なのです。毎日もしくは１週間に一回程度、部活動についてのクラブ日誌を顧問に提出して、その日の練習、試合などの振り返りをしているクラブがあるのではないですか？このクラブ日誌が、まさにポートフォリオなのです。クラブ日誌は、クラブのことに限定されますが、ポートフォリオは、勉強や行事、学校外の活動などその範囲は多岐に渡ります。テストがあれば、その結果についての振り返り、行事があればその行事についての活動記録や振り返りをすることで、自分のことを客観的に観ることを行います。そして、自分の強み・弱みを認識し、次へのステップにするというのが、ポートフォリオです。

今、１年生ではアナログ形式のポートフォリオが配付されていますよね。どんどん、書き込んでください。また、スタディサプリにもe-ポートフォリオ機能があります。活用することをお勧めします。今後、学校としては、先ほど紹介したJapan e-ポートフォリオへの参加を考えています。

【3】未来のマナビフェス　-2030年の学びをデザインする

８月９日・10日に東京お台場にある武蔵野大学有明キャンパスで、「未来のマナビフェス」が開催される予定でした。ところが、台風１３号の影響で、９日の開催は中止。10日のみの開催となってしまいました。しかし、１日だけでもかなり濃い内容のマナビフェスでした。大まかなプログラムを紹介すると

＊オープニングセッション　京都大学　溝上慎一教授
＊基調講演　『2030年の学び　世界の議論、日本の動向』
田熊　美保（OECDシニアアナリスト）
白井　俊　（文部科学省　初等中等教育局教育課程課　教育課程企画室　室長）
＊実行委員会セッション　各高校の取組の紹介
＊ポスターセッション
＊テーマ別セッション
＜トランジション＞　・・・溝上慎一（京都大学教授）
＜アクティブラーニング＞・・・森朋子（関西大学教授）
＜キャリア教育＞　・・・児美川孝一郎（法政大学教授）
＜評価・カリキュラム＞　・・・松下佳代（京都大学教授）
＊ラップアップセッション　中原淳（立教大学教授）

という内容です。朝９：３０～夕方１８：３０までみっちりプログラムが組まれた内容でした。関西大学の森先生には、７月２３日に本校で教職員向け研修をしていただいています。私は、テーマ別セッションで、松下教授の評価・カリキュラムに参加してきました。また、ポスターセッションにも参加し、〇〇高校が昨年度から取り組んでいるクエストエデュケーションの取組の内容を報告してきました。

ポスターセッションとは、模造紙大の紙を貼り、その前に立って、説明をする形式です。説明する方も、聞く方も非常に近い位置にありますので、一方的に説明したり、聞いてばかりということもなく、説明の途中でも質問があったりして、双方向のやり取りができる場です。去年、ＧＵＴＳ！２０１８に参加した人は、経験していますよね。

ポスターセッションは、Ａグループ、Ｂグループの二つに別れ、それぞれ１時間ずつ。私はＢグループでした。準備はすでにできていましたので、Ａグループの時間にいろいろと説明を聞いていたのですが、ふと、私の用意したポスターを見ると、すでに人が集まっていました。そこで、時間前ですが、「説明しましょうか？」と尋ねると、「ヨロシク！」という返事が返ってきたので、Ｂグループの時間にはフライングですが、説明を始めました。そうすると、次から次に人が集まり、結局、１時間半、しゃべり続けていました。私の報告したテーマは、

「SSH、SGHでもない普通の普通科で取り組む探究学習」

です。今日から１週間ほど校長室の廊下側の壁に貼っておきますので、興味のある人は、見てくださいね。

このポスターセッション形式は、ナカナカいいですね！色々な場で、この形式を取り入れてはどうかと思います。今年の

クエストエデュケーションは、「ソーシャルチェンジ」。この秋からスタートですね。楽しみにしています。

さて、このマナビフェスの最後にあった中原教授のラップアップセッションはとても素晴しかったです。これからの世の中を生きていくあなた達にとても参考になると思うので、その短縮バージョンを紹介しましょう。

中原教授は、とても大学の教授とは思えないユニークなキャラの持ち主で、話はとても面白い。彼が言うには、

（１）なぜ、2030 年か？あと 12 年もあるじゃないか・・・そんな先のことなんてわかるかい！と思うかもしれないが、教育の世界では、1 年は 1 秒と考える方がよい。それほど時間はないのだ。

（２）なぜなら、「教育は動き出したら止められない」「教師の学び直しが必要」「効果が実感できるまで時間がかかる」ということです。だから、「新しい教育に取り組むのは今からだ！」

（３）何に取り組むかと言うと、

①リアル社会に備える　②学び方を変える　③学校ぐるみで取り組む

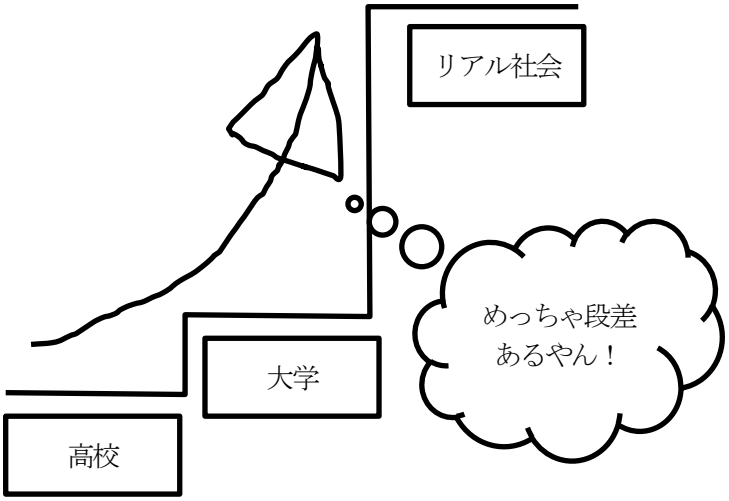
の３点です。ここでは、（3）―①の「リアル社会に備える」が、みなさんに役立つと思うので、紹介します。

第一に、学校という「教育機関の賢さ」と「リアル社会の賢さ」にズレが生じていると中原教授は言います。つまり、

	これまでのザ・教育機関の賢さ	リアル社会で求められる賢さ
どんな課題がでるか？	テスト範囲内からあたえられた課題を解く	課題を決めてすばやく解く
誰ととくか？	ひとりでとく	職場メンバーみんなでとく。 メンバーは日本人とは限らない
といているあいだは？	無言	コミュニケーションしまくり
道具は？	鉛筆と消しゴム	コンピュータ含め何でも使う

この表にあるように、学校で求められる賢さと社会で求められる賢さにズレ（それも大きなズレ）が生じています。中原教授が勤める立教大学でも学生はよく偏差値の話をするらしいです。「先生、俺たち、偏差値低くないのですよ！」というような会話です。教授は言っていました、「ナニそれ？それってリアル社会に役立つの？」と。

第二に、このズレをどんくさい教育機関は埋めることができない。こんな図です（下手な図ですが、ほんとにこんな図を中原教授は手書きで書きます）。



だから、高校⇒大学⇒社会に行き着くまでにスモールステップではなく「ベビーステップ」が必要だと、彼は言います。

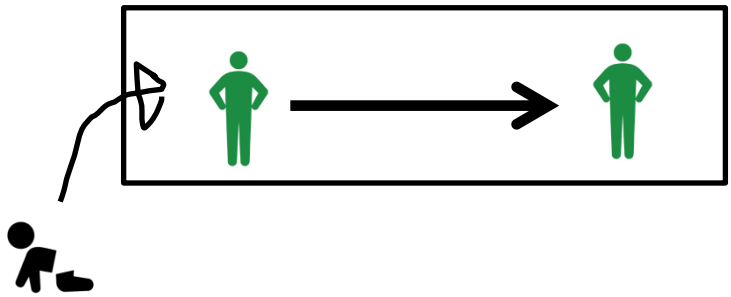
さらに、就職活動なんて、４回生からなんていうことを９割の企業は守っていない。すでに１回生・2回生から始まっているのが現実。だから、高校時代から「リアル社会」を意識させてほしいと。

ここでふと私の頭に浮かんだのが、去年からはじめたクエストエデュケーション。上の表のリアル社会の賢さのような取組を始めたよな・・・。それに、企業のミッションって、リアル社会を考えるきっかけになったよな・・・ということでした。

次に中原教授がリアル社会について言ったことは、『学び続ける大切さ』です。これが第三点目です。つまり「人生１００年時代」をどう生きるかということです。なぜそれが問題か？それは、

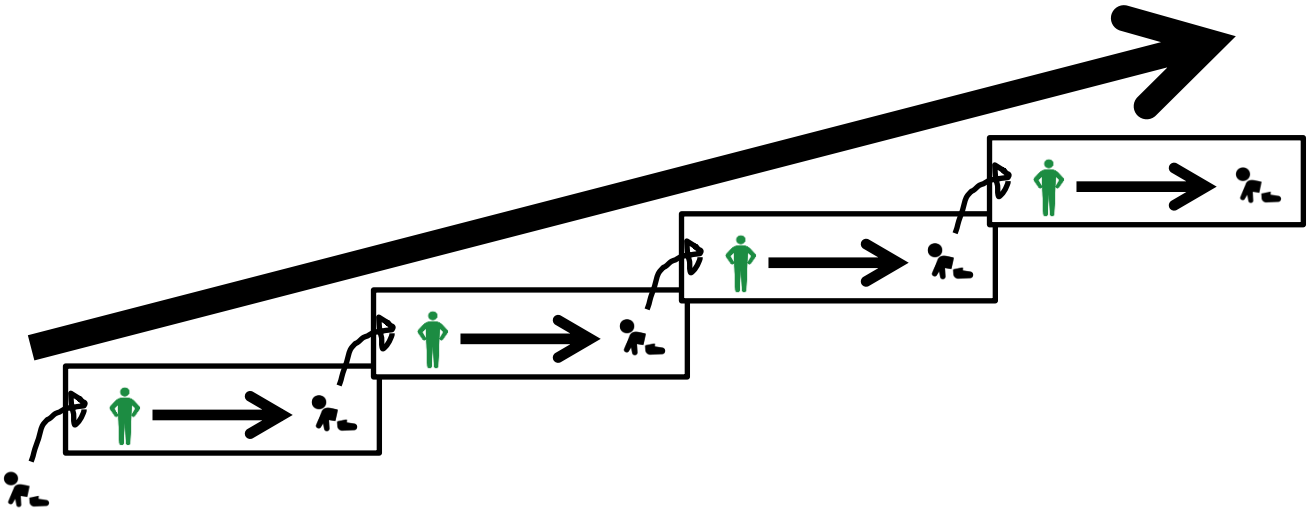
①仕事人生が長くなるから　②変化が激しいから

なのです。そこで、彼は古代社会と現代社会を比較して次のような説明をします。



左の図が、古代社会の図です。古代社会は、変化がとても遅い。だから、子どもから大人になって、大人社会に入れば、そのままずーーーーっと大人社会にいることができたわけです。

ところが、現代は、そうはいかない。変化がとてつもなく激しい。今は、ＡＩ、ＩＯＴが導入される第４次産業革命と言われる時代です。その時代を図で表すと次のようになるのです。



人が一生生きる間に、とてつもなく時代が変化し、そして早く変化するので、一旦大人社会に入ったとしても学び続けていかないと、次世代の子どもに追い越されてしまうのです。これをわかりやすく、私の例で話をしましょう。

私が、教師になった頃は、ワープロはありませんでした。しかし、３年～４年後にワードプロセッサーが発売されました。最初に買ったワープロは、画面が４行だけ表示されるものでした。当然、記憶媒体は、フロッピーディスクです。その２年後に、一太郎がアプリケーションソフトとして発売され、ワープロからPCの世界に日本語文書作成が移行しました。しかし、表計算やデータベースは、難しい言語を操る世界でしたから、中々取り組めませんでした。が、これを解決したのが、windows９８の登場でした。その後、このWindowsはどんどんバージョンアップし、現在に至っています。その新しいバージョンになるにしたがって、マニュアルを購入し、自分で勉強することの繰り返しです。諦めたら、どんどん下の世代に追い越され、ポンコツ扱いされてしまうからです。変化に乏しい教育現場でさえ、このような事態ですから社会の変化はもっと凄まじいでしょうね。

【４】経産省「未来の教室」

夏休みではありませんでしたが、７月３日にＺ会ソリューションズの「未来の教室」のセミナーに参加してきました。中心は、経産省の「未来の教室」です。とても面白かったので、紹介します。そして、とても気に入った言葉を知りました。

圧倒的な当事者意識と５０ｃｍ革命

です。「圧倒的な当事者意識」は、わかりますよね。他人事にしない、自分のこととして考えると言うことです。それも「圧倒的に」です。これが２１世紀に生きるときに必要な力。もうすぐ、創造祭が始まりますが、一部の人だけが取り組んでいるということはないですか？当事者意識は持っていますか？真剣に関わってこそ、成果も大きいし、達成感もあるし、感動もあるのです。当事者意識をもって取り組みましょう。必ず、得るものがあります。

そして、「５０ｃｍ革命」。初めて聞く人もいると思います。何のことかと言うと、アップルのカリスマ経営者であった、スティーブン・ジョブスも、グーグルの創立者のラリー・ペイジとセルゲイ・ブリンも、いきなりものすごいことをはじめたのではなく、またいきなりものすごい革命を起こしたのでもないということ。つまり、自分の身の回りのちょっとしたことを変えてみる、良くしてみる、そんな積み重ねの先に「とてつもない大きな変革」があったということです。それを、自分の身の回り＝５０ｃｍにまずは革命を起こしてみませんか？ということが、この「５０ｃｍ革命」という意味なのです。

【５】最後に・・・

以上、今年の夏の私の学びの紹介をしました。そうそう、一つ忘れていました。兵庫教育大学の大学院を卒業したあと、もう少し、学びたいと思い、放送大学に在籍し、科目履修生で「社会統計学調査」という講座を前期に履修していました。そして、なんと、７月２８日に単位習得のためのテストがあったのです。久しぶりのテスト。テスト勉強もしました。まだ結果は返ってきていません。テストを返却されるときの君たちと、今は同じ気持ちです・・・。